

「めがねと旅する美術展—視覚文化の探究—」プレスリリース

静岡県立美術館展覧会担当 TEL: 054 - 263 - 5857 FAX: 054 - 263 - 5742 18/10/03

展覧会名	めがねと旅する美術展—視覚文化の探究—
会期	2018年11月23日(金・祝)～2019年1月27日(日)
休館日	休館日: 毎週月曜日 *ただし、12月24日(月・振)および1月14日(月・祝)は開館、翌12月25日(火)および1月15日(火)は休館 *年末年始休館: 2018年12月29日(土)～2019年1月1日(火)
開館時間	午前10時～午後5時30分(展示室への入室は午後5時まで)
観覧料	一般 1,000円(800円) 70歳以上 500円(400円) 大学生以下 無料 *( )内は前売及び20名以上の団体料金。 *収蔵品展、ロダン館もあわせてご覧いただけます。 *身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料。
主催・協賛	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 主催/静岡県立美術館、テレビ静岡</li> <li>■ 協賛/ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社</li> <li>■ 協力/株式会社東京メガネ、株式会社アートボックス</li> <li>■ 企画/トリメガ研究所</li> </ul>
交通案内	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分(料金100円)</li> <li>■ JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分、又は北口から静鉄バスで約30分</li> <li>■ JR「東静岡駅」南口からタクシーで約15分、又は静鉄バスで約20分</li> <li>■ 静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分、又は静鉄バスで約3分</li> <li>■ 東名高速道路・静岡IC、清水IC、又は新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分</li> </ul>
主な出品作品	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 反射式覗き眼鏡と眼鏡絵《阿蘭陀十景》より 18世紀頃 町田市立国際版画美術館</li> <li>■ 原在正《富士山図巻》より第四巻 1796-1800年頃 個人蔵</li> <li>■ 南小柿寧一(画)、中伊三郎(銅板)『重訂解体新書銅板全図』1826年 津和野町郷土館</li> <li>■ 不染鉄《山海図絵(伊豆の追憶)》1925年 公益財団法人木下美術館</li> <li>■ 吉田初三郎《静岡市を中心とせる名所図絵》1930年 八戸クリニック街かどミュージアム</li> <li>■ 山口晃《百貨店圖 日本橋三越》2004年 株式会社三越伊勢丹ホールディングス</li> <li>■ 山田純嗣《(17-3)舞妓林泉》2017年 作家蔵</li> <li>■ 金巻芳俊《円環カプリス》2018年 作家蔵</li> <li>■ 松本啓吾、鳴海拓志、築瀬洋平、伴祐樹、谷川智洋、廣瀬通孝(東京大学大学院廣瀬・谷川・鳴海研究室)《Unlimited Corridor》(VR体験作品) 2018年</li> <li>■ 塚原重義[監督]《押絵ト旅スル男》(新作アニメーション/9分) 2018年</li> <li>■ その他、浮世絵、絵画、映像作品、インスタレーション作品など総計約200点</li> </ul>
内容/ みどころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「めがね」をキーワードとし、「みる」ことの意味を問い直す展覧会です。</li> <li>■ 遠近法とレンズを用いた江戸のめがね絵から、鉄道・飛行機・顕微鏡・望遠鏡といった科学技術の発達をもたらしたマイクロ/マクロの新視覚を紹介。</li> <li>■ さらには視覚トリックや映像を用いたユニークな現代アートやバーチャルリアリティーの研究成果といった題材を通じ、私たちの視覚に対する探究の足跡をたどります。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ あらためて振り返ってみると、現代社会は膨大な量の画像や動画、文字やサインといった視覚情報に彩られており、私たちの生活は「みる」ということに圧倒的に依存しています。</li> <li>■ 「みる」を漢字で書くと、「見る」「観る」「視る」「診る」とその意味は幅広く、「みる」ことの意味を考えることは現代社会を考えることといっても過言ではありません。本展のねらいはまさにそこにあります。</li> </ul>

「めがねと旅する美術展—視覚文化の探究—」プレスリリース

静岡県立美術館展覧会担当 TEL: 054 - 263 - 5857 FAX: 054 - 263 - 5742 18/10/03

お問い合わせ	静岡県立美術館 TEL(代):054-263-5755 *メディア掲載時のお客様問い合わせ電話番号としてはこの番号をご掲載ください。
HP アドレス	ウェブサイト <a href="http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp">http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp</a>
展覧会担当	村上 敬(学芸課) 金原 功(総務課) TEL:054-263-5857 FAX:054-263-5742 (学芸課) TEL:054-263-5755 FAX:054-263-5767 (総務課) 〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2 静岡県立美術館
関連イベント	<p>■「トリメガ研究所」トークショー 日時:11月23日(金・祝) 14:00~15:30 場所:当館講堂 講師:川西由里(島根県立石見美術館専門学芸員)、工藤健志(青森県立美術館総括学芸主幹)、村上 敬(当館上席学芸員) * 入場無料・申込不要・先着 250 名様まで 本展を企画した「トリメガ研究所」は「視覚文化を研究する仮想のラボ」という設定で誕生した学芸チームです。静岡展開幕に際して、展覧会の裏話や企画意図について語り合います。</p> <hr/> <p>■館長美術講座「パノラマ館訪問—明治のバーチャル・リアリティを味わう」 日時:1月20日(日) 14:00~15:30 場所:当館講堂 講師:木下直之(当館館長) * 入場無料・申込不要・先着 250 名様まで</p> <hr/> <p>■実技講座 12月8・9日(土・日) ■わくわくアトリエ 1月20日(日) *「実技講座」および「わくわくアトリエ」については事前のお申し込みが必要です。 * 内容詳細とお申し込み方法については約 1 ヶ月前をめどに当館ホームページまたは館内配架チラシでお知らせします。</p> <hr/> <p>■フロアレクチャー 当館学芸員が展示室にて解説を行います。 日時:12月2日(日)、1月6日(日) いずれも 14:00 から 30 分程度 集合場所:企画展第1展示室 * 申込不要、観覧料が必要です。</p>
会期中の収蔵品展	「不思議なアート」:2018年10月16日(火)~12月2日(日) 「美術の時間 現代アートにおける時間の表現」:2018年12月4日(火)~2019年2月3日(日)

※記載内容には変更の可能性があります。ご掲載にあたっては、県立美術館ホームページ等でご確認いただけますと幸いです。

【広報用画像】 展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAX・E-mailにてご連絡ください。



1 塚原重義 [監督]《押絵ト旅スル男》  
(イメージイラスト) 2018年



2 不染鉄《山海図絵(伊豆の追憶)》1925年  
公益財団法人木下美術館

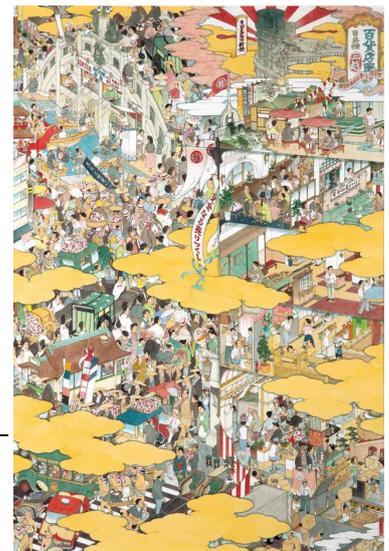


3 吉田初三郎《静岡市を中心とする名所図絵》  
1930年 八戸クリニック街かどミュージアム



5 山田純嗣《(17-3) 舞妓林泉》2017年 作家蔵

4 山口晃《百貨店圖 日本橋三越》2004年  
株式会社三越伊勢丹ホールディングス  
撮影：宮島径 ©YAMAGUCHI Akira,  
Courtesy of Mizuma Art Gallery



6 松本啓吾、鳴海拓志、築瀬洋平、伴祐樹、谷川智洋、廣瀬通孝(東京大学大学院廣瀬・谷川・鳴海研究室+Unity Japan)《Unlimited Corridor》2017年

7 金巻芳俊《円環カプリス》2018年 作家蔵  
©Yoshitoshi Kanemaki, FUMA Contemporary Tokyo/文京アート



## めがねと旅する美術展 広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

宛先：静岡県立美術館 （担当）総務課 金原 宛

FAX : 054-263-5767 E-mail : kinpara@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp

### 【画像ご使用に際してのお願い】

- \* 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- \* 写真のご利用は、1 申込について1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- \* 御掲載にあたっては、作家・作品名・所蔵者・コピーライト以下表記を必ず明記ください。
- \* 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- \* 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- \* お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行・放送予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
E-mail：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>（おおよそで結構です 例：5 cm 四方、など）</small> ：

### ■画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

- 1 塚原重義 [監督] 《押絵ト旅スル男》（イメージイラスト） 2018 年
- 2 不染鉄 《山海図絵（伊豆の追憶）》 1925 年 公益財団法人木下美術館
- 3 吉田初三郎 《静岡市を中心とせる名所図絵》 1930 年 八戸クリニック街かどミュージアム
- 4 山口晃 《百貨店圖 日本橋三越》 2004 年 株式会社三越伊勢丹ホールディングス  
撮影：宮島徑 ©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery
- 5 山田純嗣 《(17-3) 舞妓林泉》 2017 年 作家蔵
- 6 松本啓吾、鳴海拓志、築瀬洋平、伴祐樹、谷川智洋、廣瀬通孝（東京大学大学院廣瀬・谷川・鳴海研究室+Unity Japan）《Unlimited Corridor》 2017 年
- 7 金巻芳俊 《円環カプリス》 2018 年 作家蔵  
©Yoshitoshi Kanemaki, FUMA Contemporary Tokyo/文京アート

### ■プレゼント用招待券申込

（ご希望の場合はチェックをつけてください。）

5 組 10 名様分 希望します。

[チケット送付先]

ご住所：〒

＜広報用画像に関する問い合わせ先＞

静岡県立美術館

総務課：054-263-5755

広報担当 （総務）金原

展覧会担当 （学芸）村上